



山口県大学 ML (Museum・Library) 連携事業報告

平成26年度 展示テーマ『発見』

事業の経緯

参加館が共通テーマに沿って各大学や館の特性を生かした学術資料または研究成果の展示を開催するという現行体制での2年目となった平成26年度は、新たに2大学3館(岩国短期大学附属図書館、東亜大学附属図書館、山口大学医学部図書館)が参加することとなり、11大学15館(下記「事業の実施体制」参照)での事業開催となった。

平成26年6月17日に山口大学にて山口・萩以東地区の、翌18日には梅光学院大学にて下関地区の、同日宇部フロンティア大学にて宇部地区の事業説明会を開催し、

◎展示の共通テーマを『発見』とする

◎事業期間は10月から翌年1月までとし、各館2ヶ月以上は展示開催する

◎事務局体制として、下関地区と宇部地区に地区連絡等担当館を置く

◎見学者が効率よく各館を回れるよう、各地区で開催期間を調整する

◎今年度もスタンプラリーを実施し、4館見学でコットンバッグ、8館見学で手ぬぐいをプレゼントする

などが決定された。

以降、各館の展示準備とともにポスター、スタンプラリーカード(チラシ)の作成などが進められ、広報物納品後は事務局とともに各館による広報活動が繰り広げられた。

この間、平成26年6月19日～20日に開催された第17回大学博物館等協議会・第9回博物科学会にて当事業に関する研究発表(山口大学:横山・吉光)が、平成26年7月12日には西日本図書館学会山口支部研究会にて事例報告(至誠館大学:藤本)が行われ、博物館・図書館両業界へ当事業の独自性が強くアピールされたことも成果の一つに数えられる。

平成26年10月、予定通り「山口県大学 ML 連携特別展」は開幕し、期間中計測されただけ(図書館での開催は見学者を正確にカウントすることが困難)でもおよそ1,500名もの方々に見学いただいた。スタンプラリーも最終的に4館達成者が39名、8館達成者が20名と、昨年度を大きく上回った。

次頁より参加各館の展示内容の紹介と実施成果を報告するが、事業終了後の平成27年2月24日に山口大学において事業報告会が開催され、次年度の事業の継続とともに以下のことが決定された。

◎展示の共通テーマを『つなぐ』とする

◎事業期間は10月から翌年1月までとし、各館2ヶ月以上は展示開催する
また、参加館からは

◎パンフレットに掲載できない情報も多く、またパンフレット作成の時期には各館の企画も確定していないので、余力があればパンフレットとは別途、各館独自の展示内容ポスターを作成してはどうか。

◎各館独自のチラシを作成するために、共通で利用できる片面の広報用デザインを用意してはどうか。裏面に各館で作成した独自チラシ等を印刷して活用したい。

などの提案があった。当事業は未だ発展途上にあるため、今後も様々な模索が繰り返されるであろうが、山口県の大学力の向上のためにも事業を継続していく所存である。

事業の実施体制

・主催

山口県大学 ML 連携事業事務局(山口大学情報環境部学術情報基盤整備室内)

代表 吉光紀行 (山口大学情報環境部学術情報基盤整備室 室長)

企画担当 横山成己 (山口大学埋蔵文化財資料館 助教)

事務担当 川上 誠 (山口大学情報環境部資料契約係 図書系職員)

岡崎聡志 (山口大学情報環境部情報サービス係 図書系職員)

下関地区担当 下関短期大学図書館

宇部地区担当 宇部フロンティア大学附属図書館

・参加館

岩国短期大学図書館 宇部フロンティア大学短期大学部図書館

宇部フロンティア大学附属図書館 至誠館大学附属図書館

下関市立大学附属図書館 下関短期大学図書館 水産大学校図書館

東亜大学附属図書館 梅光学院大学図書館 梅光学院大学博物館

山口県立大学附属図書館 山口大学医学部図書館 山口大学総合図書館

山口大学埋蔵文化財資料館 山口東京理科大学図書館 (50音順)

・共催

大学コンソーシアムやまぐち 山口県大学図書館協議会

・後援

山口県図書館協会 山口県博物館協会 大学博物館等協議会



展示広報用ポスター



4館達成でコットンバッグ
8館達成でオリジナル手ぬぐい
をプレゼント



山口県大学ML連携事業web



岩国短期大学 附属図書館

『発見、絵本！ ～子どもの心を育むもの』

【展示内容】

岩国短期大学は平成25年度から幼児教育科の単科短大として出発しています。図書館蔵書の中でも、保育に深くかかわる絵本について、本学所蔵の絵本をジャンル別に分類し、そのうちの代表的なものを展示しました。

また、絵本を題材にした授業（「基礎ゼミナール」の「絵本100冊読み」の実践、「児童文化」の「私の心の一冊表紙づくり」の実践など）の紹介や、それら授業の学習成果を展示しました。

【主な展示品】

- ・しかけ絵本などの様々な絵本
- ・学生による作品（手作り絵本など）

【観覧者数】

約100名

【関連事業】

学生によるおはなし会（絵本の読み聞かせ、紙芝居等）
11月16日（日）午前・午後各1回：参加者32～35名

【成果】

幼児教育科を有する本学の図書館が所蔵する絵本について、体系的に展示する（テーマにより分類した絵本・洋書と和書共に揃っている絵本・しかけ絵本・大型絵本）ことにより、学内外の方に、幅広い絵本の魅力を知っていただいたことが大きな成果です。

また、絵本に関連した学生の学習成果（「私の心の一冊」についてのポップアート作品、「絵本100冊読み」の読書ノート、「手作り絵本」）を紹介することにより、幼児教育科の授業内容の一端を、学内外の方に理解していただくこともできました。

【来年度山口県大学 ML 連携事業に向けて】

今年度が初めての参加で、事業に関する広報が、学内外共に不足しました。次年度から、学外に向けては、市内及び近郊の公共施設等へのポスター・パンフレットの配布を検討したいです。学内では、学生図書委員の活用を図り、学生向けのPR方法を検討します。

今回は図書館主体で展示を行いました。今後も続けていくためには、展示内容自体に教員の協力を仰ぐ必要があると思います。

住 所：〒740-0032 岩国市尾津町2丁目24-18
電 話：0827-31-8141（代）
e-mail：library@iwakuni.ac.jp
http://www.iwakuni.ac.jp
●開催期間：10月20日（月）～12月19日（金）
●開館時間：8時30分～16時30分
●休館日：土・日・祝日
※11月15日（土）・16日（日）は臨時開館



展示の様様



読み聞かせの様様



宇部フロンティア大学 短期大学部図書館

『「うま味 (umami)」の発見 / 「絵本」の発見』

【展示内容】

「うま味」現在までに、色々な栄養素などが発見されてきました。今回は、ユネスコ無形文化遺産に登録された和食において重要かつ日本人が発見した「うま味」について展示を行いました。

「絵本」絵本は、言語の発達、想像力を養い、親子のコミュニケーション、読書を促すなど、子どもの発達に大変効果があります。絵本860冊の寄贈を含む本学文庫を中心に、大人も子どもも楽しめる絵本の魅力を紹介致しました。

【主な展示品】

- ・「大人も子どもも楽しめる絵本」の解説パネルと関連図書
- ・「うま味の発見」の解説パネルと関連図書

【観覧者数】

74名

【関連事業】

11月16日（日） 絵本の読み聞かせ：参加者48名

【成果】

食物栄養学科からは「うま味の発見」、保育学科からは「絵本の発見」と、学科ごとの展示を行いました。関連事業として開催した図書館同好会主催の「読み聞かせ」は2年目に入ったため、リピーターが多く昨年度の2倍の参加者がありました。

学生の研鑽の場や地域貢献の場として図書館を利用いただき、利用拡大につながりました。

【来年度山口県大学 ML 連携事業に向けて】

今年度は展示スペースが足りませんでした。次年度はテーマを一つに絞り 立体的に展示し、内容を充実させたいと考えています。

近隣の高校の先生が図書係の生徒を連れて来館されるケースがありました。生徒たちも関心をもって観覧しており、次年度は高校に向けての広報を拡大してみてもいいと思います。

住 所：〒755-8550 宇部市文京町5-40
電 話：0836-35-9511（総務課）
e-mail：soumu@ube-c.ac.jp
http://www.ube-c.ac.jp/index.html
●開催期間：10月1日（水）～12月25日（木）
●開館時間：9時～18時
●休館日：土・日・祝日
※11月16日（土）は臨時開館



展示の様様



読み聞かせの風景



宇部フロンティア大学 附属図書館

『学生力発見！！』

【展示内容】

本学図書館では学生が自分の中の好奇心や創造力の発見を目的として学生協働を行っており、山口県大学ML連携展も彼らが主体で行いました。そんな学生力を教職員が発見するきっかけとなったのが、学生が一人で本への思いを込めて作る「一人展示」でした。

本展ではその記録展示に加えて、本学の他の学生や教職員の本への思いを集めて展示する「本の思い出発見プロジェクト」、新聞を再編集する「新聞・再構築ワークショップ」を実施しました。

【主な展示品】

- ・全学学生と教職員による『思い出発見プロジェクト』
- ・学生による『個人展示』

【観覧者数】

183名

【関連事業】

- 【図書館と学生協働メンバー LiFro との協同事業】
- 『新聞再構築』ワークショップ

【成果】

『図書館学生協働 (LiFro)』を中心に活動したことで、本学図書館活動がより活性化し、活動成果を学内外にアピールできました。県内外からの一般訪問者があり、山口県大学ML連携展の広報の成果が見られるのではないかと考えています。

また、学生とともに、図書館の在り方を再考することができました。学生は他大学の博物館や図書館活動に関心をもち、積極的な参加が見られるようになりました。

【来年度山口県大学 ML 連携事業に向けて】

今回は学生の活動が中心でしたが、次年度は学内の研究物の分かりやすい展示を加えたいです。図書館での展示ということで、図書資料中心であったが、研究全般を意識して展示構成しようと思います。また、ワークショップは回数が少ないため、学内外にアピールするとともに日程や時間を工夫することで、より参加者を増やしたいと考えています。

住 所：〒755-0805 宇部市文京台 2-1-1
電 話：0836-38-0524
e-mail：tosho@frontier-u.jp
<http://www.frontier-u.jp/index.php/a-library>
●開催期間：10月1日(水)～12月25日(木)
●開館時間：8時30分～17時15分
●休館日：土・日・祝日
※10月25日(土)・26日(日)は臨時開館



展示の様様



ワークショップの風景



至誠館大学 附属図書館

『発見～メロディーの向こうに
見えるもの：童謡・唱歌～』

【展示内容】

日本には子どもの歌が沢山あります。私達は、子どもの頃から沢山の歌を歌ってきましたが、その歌に込められた意味はあまり知られていません。本学では、童謡・唱歌を中心に、歌に込められた作者の心、背景、メッセージを展示紹介しました。

【主な展示品】

- ・童謡・唱歌の歌詞・解説 「故郷」「赤とんぼ」他13曲

【観覧者数】

約70名

【関連事業】

- 11月2日(日) 歌唱解説並びに演奏会：参加者29名

【成果】

11月2日に行った歌唱解説では、解説を聞くとともに本学学生、萩市の小学生の歌や、オカリナの演奏を聴くことができました。歌詞を見て懐かしく感じた、自分の知らなかったことが解説の中にたくさんあった等の感想をいただきました。

昨年度と比べ、少しですが学外の来館者が増えました。今回初めて来館された方もおられ、この事業に参加することにより足を運んでもらえる良い機会となっていると感じました。

【来年度山口県大学 ML 連携事業に向けて】

昨年度よりはスタンプラリー参加者も増えたように思います。

学生や教員など学内にもこの事業について広報し、今後の協力体制を作っていく必要があると思います。

住 所：〒758-8585 萩市椿東浦田 5000
電 話：0838-24-4081
e-mail：library@shiseikan.ac.jp
<http://www.shiseikan.ac.jp/library>
●開催期間：10月20日(月)～12月24日(水)
●開館時間：8時45分～17時30分
●休館日：土・日・祝日
※11月2日(日)は大学祭のため臨時開館



展示の様様



歌唱解説風景



下関市立大学 附属図書館

『鯨産業の歴史発見』

【展示内容】

江戸時代の捕鯨の様子を描いたパネル展示や、イワシクジラの頭部骨格標本および捕鯨母船「第二回南丸」の模型の展示を行いました。

また、閲覧をご希望の方には、本学内に常設されているくじら資料室をご紹介します。

【主な展示品】

- ・熊野太地浦捕鯨史 別冊巻之一「鯨類繪巻」抜粋パネル
- ・ふぐ提灯

【観覧者数】

10名(アンケート枚数をもとに計上)

【関連事業】

10月18日(土) 鯨資料室シンポジウム(地域共創センター主催)

【成果】

普段来館しない層の一般利用者が本館を利用するきっかけとなりました。展示物においては、鯨類絵巻の拡大パネルが概ね好評でした。

【来年度山口県大学 ML 連携事業に向けて】

観覧者数が少ないため、参加者の増加を図る必要があります。本学においては山口県大学 ML 連携の認知度が高くないように感じられたため、より人目に付く場所へのポスター掲示や、一般の方が参加するイベントでパンフレットを配布する等の方策を検討したいです。

住 所：〒751-8510 下関市大学町 2-1-1
電 話：083-252-1211
e-mail：library@shimonoseki-cu.ac.jp
http://www.shimonoseki-cu.ac.jp/library/
●開催期間：10月1日(水)～11月30日(日)
●開館時間：月～金 9時～21時30分
土・日 9時30分～17時
●休館日：祝日・館内整理日・大学祭期間



展示の模様



観覧風景



下関短期大学 図書館

『発見！「けんちょう」の魅力 ～郷土料理の謎をひもとく～』

【展示内容】

「崩した豆腐と人参や大根などの野菜の炒め煮」を山口県では、「けんちょう」「けんちょう汁」等と呼んでいます。昨年度、栄養健康学科ゼミナール活動にて料理のルーツを探り、伝承の魅力を発見する研究を行いました。更に、新たな魅力を付加した「けんちょう丼」(国立循環器病研究センター主催「ご当地かるしおレシピプロジェクト 2013 S-1g 大会」優秀賞受賞、写真参照)を作成しました！

展示では「けんちょう」の由来と、研究で発見した魅力をご紹介します。

【主な展示品】

- ・「聞き書き 山口県の食事」(農山漁村文化協会、1989年)
- ・2013 S-1g (エス・ワン・グランプリ) 大会賞状

【観覧者数】

アンケート回答者 20名

【関連事業】

なし

【成果】

平成25年度、栄養健康学科ゼミナールで行った研究活動の一端を紹介することができました。学内教員が展示企画者となることによって、図書館所蔵資料だけでなく、授業・研究・社会活動の紹介を同時に行うことができたと考えてます。

展示期間内に大学祭(11月8日(土)、9日(日))が含まれていたため、保護者や地域住民の方々にも観覧して頂くことができました。

【来年度山口県大学 ML 連携事業に向けて】

下関地区に関していえば、各館の事情とはいえ市内7館が同時に開催している時期が全くなかったため、スタンプラリー参加者に対して不都合な面もあったと感じています。本学の課題としては、カウンター(スタンプラリー受付場所)と展示スペースが異なっていたので、正確な観覧者数は把握できなかったことです。また、今回は展示担当教員の多忙もあり、展示期間内にワークショップ、展示説明会などの関連事業ができませんでした。今後は、学内で早期から検討したいと思います。

住 所：〒750-8508 下関市桜山町 1-1
電 話：083-223-5340
e-mail：lib@shimonoseki-jc.ac.jp
http://www.shimonoseki-jc.ac.jp/
●開催期間：10月1日(水)～11月30日(金)
●開館時間：9時～17時30分
●休館日：土・日・祝日
※11月8日(土)・9日(日)は臨時開館



展示の模様

平成26年度 山口県大学ML連携特別展 開催中！ 下関短期大学図書館 平成26年(2014)冬号

山口県大学ML(ミュージアム・ライブラリー)連携特別展とは、県内大学博物館・図書館が各々、特色ある資料・研究成果等を地域に広く公開するための事業です(26年度は県内11大学15館が参加)。

本年度の共同テーマは「発見！」。各大学の研究・発見に関する資料展示を行っています。本学では、図書館内に「発見！「けんちょう」の魅力～郷土料理の謎をひもとく～」(発表担当：本学栄養健康学科)に関する資料が展示されています(展示期間：10/1～1/30)。既にご覧になった方も多くいます。

そこで今回は市内他大学の展示場にも行きます！2館は11月中旬で展示終了ですが、旭光大学は12/2～1/31の展示です。この機会に他施設に行っていないであろう「新たな発見」が待っています！

下関市立大学附属図書館 展示タイトル「鯨産業の歴史発見」(期間10/1～11/30・写真1)
下関における江戸時代～現代の鯨産業の歴史が主眼でした。下関の水産業の一翼を担う「ク」を使った「けんちょう」も展示されていました。文書に添えられたのは、この展示は11月30日で終了したためです。しかし大丈夫！下関市立大学の「くじら資料室」は希望者は随時、見学できます！

水産大学校図書館 展示タイトル「水産都市「下関」の再興に向けた「発見」」(期間10/1～11/28・写真2)
水産大学校で取り組んでおられる3つの研究「LED魚灯の開発」「3次元海底地形図とGISを統合した海底地形解析」「産業界の世界」に関するパネル展示が中心でした(11/28終了)。

新習大学附属図書館 展示タイトル「産物の世界～自己の表現力の発見・再発見」(11/4～12/19・写真3)
産物の歴史・技法紹介、芸術家による産物制作作品が主眼の展示です。

一般人は目撃しにくい産物の技法紹介や産物の展示もあり、とても分かりやすい展示でした。学生の作品は、日常風景・植物・幻想的なモチーフなど多岐にわたっており、産物制作の魅力も発見できます！



写真1 下関市立大学附属図書館の展示 写真2 水産大学校図書館の展示 写真3 新習大学附属図書館の展示
(写真掲載を御許可いただいた施設各位に感謝申し上げます)

本学図書館報に掲載された下関地区参加館の展示情報



水産大学校 図書館

『水産都市「下関」の 再興に向けた「発見」』

【展示内容】

かつては捕鯨業や遠洋トロール漁業の基地として栄えた下関ですが、厳しい国際環境の中で、商業捕鯨や外国 200 海里水域内からの撤退を余儀なくされ、今日に至っています。しかし、下関は、瀬戸内海と日本海に面し、多様な海洋環境と水産資源に恵まれています。温暖化をはじめとする海洋環境の変化による影響も少なくはありませんが、今回は水産都市「下関」の再興に向け、本校で取り組んでいる調査・研究の一端を紹介しました。

【主な展示品】

- ・「海底地形解析」、「超高压の世界」についてのパネル
- ・喜山丸の模型

【観覧者数】

53 名

【関連事業】

なし

【成果】

「発見」をテーマとして、海洋生産管理・海洋機械工学・食品科学・生物生産・水産流通経営の 5 学科において行われている研究の成果の一端をパネル・船模型の展示にて紹介しました。公開講座・保護者懇談会・大学祭が同日開催された 10 月 11 日（土）には外部に向けて臨時開館を行い、保護者の方々や公開講座の参加者など、多くの訪問者に観覧していただくことができました。

【来年度山口県大学 ML 連携事業に向けて】

昨年度と同様ですが、地の利の悪さが災いしてか、今年度もあまり観覧者を得ることができませんでした。しかし、オープンスペースで行ったため、本学の学生にはかなり観覧してもらえたと思います。

住 所：〒759-6595 下関市永田本町 2-7-1

電 話：083-286-5114

e-mail：nfulib@fish-u.ac.jp

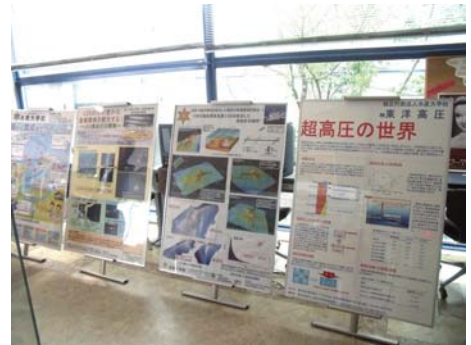
http://www.fish-u.ac.jp/

●開催期間：10 月 1 日（水）～ 11 月 28 日（金）

●開館時間：9 時～ 17 時

●休館日：土・日・祝日

※10 月 11 日（土）は臨時開館（11 時～ 17 時）



展示の様様



観覧風景



東亜大学 附属図書館

『版画の世界 ～自己の表現力の発見・再発見』

【展示内容】

図書館を、本学芸術学部の在学生たちの授業作品、わけても版画作品の発表・紹介の場とし、版画の世界やその多彩な技術を紹介するパネル・コーナーとあわせてユニークな展示空間を構想しました。折りしも近隣の山口県立美術館にて「大浮世絵展」があったばかりです。そのことによって、読書空間と視覚空間、それに学外の社会空間が相互に共鳴しあうハイブリッドな「公共空間」としての図書館のあり方について、一般の人々に新たな感受性をもって親しんでいただくことを目的としました。

【主な展示品】

- ・銅版画（凹版画）の作品
- ・製作技法と道具

【観覧者数】

不明（記名者 40 名）

【関連事業】

なし

【成果】

今回初めての参加で、連携展の目的に適ったものになったのかいささか不安もありましたが、「発見」というテーマのもと、本学の行う教育・研究の一端について少しでもご理解をいただくことができたのは幸いでした。

【来年度山口県大学 ML 連携事業に向けて】

「連携展」として毎年継続開催を前提とすると、当図書館の所蔵を元に「テーマに沿った魅力ある展示」がどこまでできるのか、展示スペースに制約のあるなかで展示方法をどうするかが本学の課題として見えてきましたが、連携事業により本学への関心を高めていけるようにと考えています。

住 所：〒751-8503 山口県下関市一の宮学園町 2-1

電 話：083-257-5111

e-mail：tosyo@toua-u.ac.jp

http://www.toua-u.ac.jp/

●開催期間：11 月 4 日（火）～ 12 月 19 日（金）

●開館時間：9 時～ 17 時

●休館日：日曜日・祝日・第 3 土曜日



観覧風景



「製作技法と道具」展示



梅光学院大学 図書館

『発見！～100年前の文芸雑誌から～』

【展示内容】

本学が今年、下関開学 100 年を迎えたことを受け、今からおよそ 100 年前に出版された、大正時代の文芸雑誌の復刻版を展示しました。当時の文芸雑誌の装丁や、掲載された詩歌や文学から、開学当時の時代背景や世相、時代の空気感を「発見」していれば幸いです。

【主な展示品】

- ・「バレアナ」エレナ・H・ポーター著 弘中つち子訳
- ・「赤い鳥」創刊号（大正 7 年発行）の復刻版

【観覧者数】

34 名

【関連事業】

なし

【成果】

観覧者 34 名中、25 名の一般参加がありました。当館は地域に開放された大学図書館ですが、この展示が、大学図書館へ足を運ぶ良いきっかけになったのではないかと思います。本展は 100 年前の文芸誌と、当時の世相、梅光学院の当時の様子がつながることで読めてくる様々な「発見」を展示しましたが、アンケートには「大正期の雑誌と下関の当時の様子がわかり興味深かった」というご意見等もいただきました。観覧者の皆様楽しんでいただけたかと思うと、今後の励みにもなりました。

【来年度山口県大学 ML 連携事業に向けて】

本学図書館所蔵の貴重本は件数的に限りがあるため、貴重本を展示するだけでなく、テーマに沿った資料をより興味深く見せる方法を探りたいと思います。

住 所：750-8511 山口県下関市向洋町 1-1-1

電 話：083-227-1040

e-mail：library @baiko.ac.jp

http://www.baiko.ac.jp/university/library/

●開催期間：12 月 2 日（火）～ 1 月 31 日（土）

●開館時間：9 時～ 17 時

●休館日：日曜・祝日

※12 月 27 日～ 1 月 4 日、1 月 16 日～ 18 日



展示の様様



展示解説風景



梅光学院大学 博物館

『銀幕の魅力発見！

～戦前劇場プログラムの世界～』

【展示内容】

戦前、映画は娯楽の華で、大都市では映画館の集まるエリアが形成され、大勢の観客でにぎわいました。そのころ、映画館は上映作品を紹介するプログラムを独自に発行していました。特に東京の一流劇場のプログラムは、デザインに一工夫あって楽しめます。

本展では戦前東京の劇場プログラムと戦後 40 年代の映画プログラムの数々を紹介し、あらためて、その魅力を発見していただくことを目的としました。

【主な展示品】

- ・「劇場プログラム」浅草帝国館 大正 14 年 11 月公開「ロモラ」他 53 点
- ・『月刊映画』第 2 巻第 7 号（大正 15 年 7 月 1 日発行）大正通信社 他 4 点

【観覧者数】

433 名

【関連事業】

- ミュージアムトーク 12 月 6 日（土）①11 時～学生対象：参加者 47 名
- ②14 時 45 分～ 16 時一般対象：参加者 12 名

【成果】

高校生団体に戦前の映画興行が戦火で統制されるまでの流れを説明した「臨時ミュージアムトーク」を開催しました。戦後の風俗史を扱う内容でもあり熱心に聴く様子が印象的でした。マスコミの反応としては 12 月 10 日、1 月 22 日と 2 回、2 社が紹介記事を掲載し、一般来館者が増加しました。下関市民の来館者から当館へ戦前映画資料の寄贈申し出を受けたことも大きな成果でした。会期後半の 1 月 6 日以降は、博物館学課程 2 年生による独自企画として、戦中から戦後にかけてパンフレット出現の経緯を追う展示コーナーを同時開催しました。博物館展示論の授業と連動させ、1 月 19 日には学生達による「臨時ミュージアムトーク」を開催。映画資料は歴史教材として近現代史の関心を引き出す点においては、大変有効であることが分かりました。

【来年度山口県大学 ML 連携事業に向けて】

一般市民が一層学内に入りやすいような案内板や、ポスター掲示に更なる工夫が必要。本学院内外の協力者（広報・展示）をいかに増やすか、広報活動の考え方をもう一歩進めて取り組みたいと思います。

住 所：750-8511 山口県下関市向洋町 1-1-1

電 話：083-227-1070

e-mail：museum @baiko.ac.jp

http://www.baiko.ac.jp/university/museum/

●開催期間：12 月 2 日（火）～ 1 月 31 日（土）

●開館時間：9 時～ 17 時

●休館日：日・祝日、12 月 24 日、12 月 27 日～ 1 月 4 日
1 月 14 日、1 月 16 日～ 18 日、1 月 21 日



展示の様様



ミュージアムトーク風景



山口県立大学 附属図書館

『桜園寺内文庫～収蔵資料再発見』

【展示内容】

桜園寺内文庫収蔵の古典籍類は、日本および朝鮮・中国のものを含めて約 1,500 部 12,000 冊あります。日本の古典、特に文学書に関しては刊本がほとんどですが、ジャンルは多岐にわたっています。

今回の展示では、古典籍を含めた収蔵資料の中から、主に日本の文学書を紹介します。

【主な展示品】

・八代集（筆写本）

【観覧者数】

不明

【関連事業】

なし

【成果】

昨年よりも来館者が増えたように思います。また、高校生の来館があり、文庫の中を案内し、収蔵資料の一端を紹介することが出来ました。

図書館としては、2 年続けての参加により、展示のノウハウを蓄積でき、職員自身も収蔵資料の知識を、多少ではありますが深めることが出来たと感じます。特に、展示資料『八代集』の筆写をした人物が、江戸城での浅野匠頭による刃傷事件の時、院吏としての当事者であったことは驚きの「発見」でした。

【来年度山口県大学 ML 連携事業に向けて】

PR の方策や周知手段の更なる開拓が必要と感じます。

住 所：〒753-8502 山口市桜島 3-2-1
電 話：083-928-0522
e-mail：lib@sakura3.yamaguchi-pu.ac.jp
http://www.yamaguchi-pu.ac.jp/library/ypulib/index.html
●開催期間：11 月 4 日（火）～ 1 月 29 日（木）
●開館時間：9 時～ 19 時
●休館日：土・日・月末・年末年始



観覧風景



山口東京理科大学 図書館

『科学の楽しさを知り、 学ぶ喜びを発見しよう』

【展示内容】

「理学の普及」を目標とする東京理科大学の一員である山口東京理科大学では、地方の理系単科大学として地域に密着した教育、研究を進展させています。活動の例として小中学生に対する科学教室、高大連携活動、入学した学生に対しての社会人基礎力育成等があげられます。資源のない我が国において、若者に科学の楽しさを知ってもらい、若者が学ぶ楽しさを見出すことは重要なことだと考えています。今回は、これらの活動状況を紹介しました。

【主な展示品】

・ハブ、アップライト、A アーム、燃料タンク、ペダル
・単結晶シリコン太陽電池

【観覧者数】

31 名（記帳者数）

【関連事業】

11 月 15 日（土） 学生フォーミュラ活動発表：参加者 14 名

【成果】

今年の展示では、学生が主体的に取り組んでいる「学生フォーミュラ」と「山口東京理科大学発電所」の活動紹介を行いました。学生が、学生フォーミュラ大会の様子や制作した自動車部品、活動紹介 DVD 等の展示品を準備してくれて、積極的に当展示に関わってくれました。ご来場の方に、学生がものづくりを通して得た発見やものづくりの喜びの一端を知っていただくことができたと考えています。

山口県内の大学博物館、図書館がともに実施することで、地域のみならず所蔵資料を公開できて良かったと感じました。

【来年度山口県大学 ML 連携事業に向けて】

広報面では、市内の高校や公民館にパンフレットを置かせていただいたり、市役所 facebook で紹介してもらいました。昨年より一般の方の来場が増えたように感じますが、学内外への周知を更に工夫したいと考えます。

住 所：〒756-0844 山陽小野田市大学通 1-1-1
電 話：0836-88-4512
e-mail：ylib@admin.tus.ac.jp
http://www.yama.tus.ac.jp/laboratory/library/
●開催期間：10 月 1 日（水）～ 11 月 29 日（土）
●開館時間：月～金 9 時～ 20 時
土 9 時 30 分～ 17 時
●休館日：日曜日・祝日



展示の模様



見学風景



山口大学 医学部図書館

『新発見資料から歴史を知る ～山口の医学の原点を探る～』

【展示内容】

当館では、山口県の旧家、四熊家・浅山家から山口県立医科大学（現山口大学医学部）へ寄贈された古医書を所蔵しています。江戸時代の医学書を始め、漢方医学の古典、西洋医学・物理学の翻訳書などがあり、幕末から明治初期にかけての医学及び医学教育の記録です。今回は、江戸時代の山口での医学教育に関連資料とともに紹介しました。

【主な展示品】

・全徳新論（四熊文庫） ・氣海觀瀾廣義（浅山文庫） ・「葉研」

【観覧者数】

67名（職員把握分）

【関連事業】

ミュージアムトーク 11月8日（土）

【成果】

一般の方や図書館を利用しない学内者に所蔵資料や図書館を広報する機会になりました。

【来年度山口県大学 ML 連携事業に向けて】

展示期間を近隣他館と重なるように設定していただいたのは適切だったと思います。

住 所：〒753-8505 宇部市南小串 1 丁目 1-1
電 話：0836-22-2143
e-mail：medlibsa@yamaguchi-u.ac.jp
http://www.lib.yamaguchi-u.ac.jp/
●開催期間：11月3日（月）～1月30日（金）
●開館時間：月～金 8時30分～19時15分
土・日・祝日 13時15分～18時45分
●休館日：年末年始



ミュージアムトーク風景



山口大学 総合図書館

『新発見資料から歴史を知る ～木戸孝允が憂えた日本の行く末～』

【展示内容】

山口大学総合図書館に所蔵する『松菊公書翰』の中から、新たに確認された『明治六年以後の政治に関する木戸孝允覚書』を中心に、当時の状況や歴史的な背景を探り、実物資料の展示と解説を行いました。

【主な展示品】

・『松菊公書翰』及び「木戸孝允に関する解説パネル」

【観覧者数】

不明（40～50人）

【関連事業】

ワークショップ（巻物作り体験） 11月3日（月）：参加約30名
ミュージアムトーク 11月8日（土）：参加約10名

【成果】

解説の作成にあたっては人文学部の教員にも協力を仰ぎ、充実した内容となりました。

【来年度山口県大学 ML 連携事業に向けて】

「山口大学図書館の事業」というプライドを持って、これからも歩み続けます。

住 所：〒753-8511 山口市吉田 1677-1
電 話：083-933-5177
e-mail：ootsuka@yamaguchi-u.ac.jp
http://www.lib.yamaguchi-u.ac.jp
●開催期間：11月3日（月）～1月30日（金）
●開館時間：月～金 8時30分～17時30分
土・日・祝日 11時15分～18時45分
●休館日：年末年始



ミュージアムトーク風景



山口大学 埋蔵文化財資料館

『新発見資料から歴史を知る ～山口大学発掘調査速報展2012-2013～』

【展示内容】

県内に所在する山口大学の5キャンパス（吉田・小串・常盤・白石・光）は、いずれも遺跡の上に立地しています。当館は、設立以降継続して本学の開発工事等に対する埋蔵文化財の保護業務を行ってきました。今回の展示では、平成24年度から25年度にかけて実施した発掘調査により、新たに発見された遺跡情報を公開しました。

【主な展示品】

・弥生土器や土師器などの土器 ・石庖丁や磨製石斧などの石器 ・銅製帯飾り

【観覧者数】

345名

【関連事業】

ワークショップ（網代編み体験） 11月3日（月）：参加約10名
ミュージアムトーク 11月8日（土）：参加約10名

【成果】

観覧者から「臨場感ある解説で、興味深く見ることができた」などの声が寄せられました。

【来年度山口県大学 ML 連携事業に向けて】

大学博物館の必要性を学内にアピールするため、学内広報を強化したいです。

住 所：〒753-8511 山口市吉田 1677-1
電 話：083-933-5035
e-mail：yuam@yamaguchi-u.ac.jp
http://yuam.oai.yamaguchi-u.ac.jp/Shiryokan.home/
●開催期間：11月3日（月）～1月30日（金）
11月3日（月）・8日（土）は臨時開館
●開館時間：9時～17時
●休館日：土・日・祝日・12月28日～1月4日



展示の様式

山口県大学 ML (Museum・Library) 連携事業報告

平成26年度 展示テーマ『発見』

山口県大学 ML 連携事業 web <http://www.oai.yamaguchi-u.ac.jp/ml/>

【編集】

山口県大学 ML 連携事業事務局
（情報環境部学術情報基盤整備室内）
〒753-8511 山口市吉田 1677-1
電話 083-933-5192
e-mail li322@yamaguchi-u.ac.jp

【発行】

山口大学埋蔵文化財資料館
〒753-8511 山口市吉田 1677-1
電話 083-933-5035
e-mail yuam@yamaguchi-u.ac.jp
web <http://yuam.oai.yamaguchi-u.ac.jp/>

2015.3.31